

教科・科目（単位数）	農業・生物活用（3単位）	学年	2年
使用教科書・副教材等	生物活用（実教出版）	集団	22HR・フラワー
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、園芸作物や社会動物の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）生物活用について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）生物活用について、生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・園芸や社会動物が人の健康にもたらす効用の体験や生物を活用した交流活動などのプロジェクト学習を通して、緑のある環境・園芸・社会動物の健康効果と交流対象となる人の発達段階や健康についての基礎的な知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。
② 思考・判断・表現	・地域に暮らす人々の健康に関する課題を発見し、緑のある環境や園芸、社会動物とのふれあいや飼育が健康増進につながるよう科学的な根拠に基づいて交流活動を計画し、職業人としての倫理観をもって安全で安心して参加できる交流活動に発展させ、生物活用に関する課題について創造的に科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・園芸や社会動物を活用する学習を通して、地域の人々の生活の質の向上を目指し、健康増進を付加した農業の振興や社会貢献に、自ら課題解決に向けた意識をもって主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	生物活用の意義と役割 ・生物活用の意義と役割	・植物とふれ合い、あるいは活用して、思いやることの意義と役割について理解する。	○	○	○
5	・植物・園芸と人間生活	・生活における植物および園芸の多面的な利用について理解する。植物を扱う態度を養う。	○	○	○
6	園芸作物の栽培と活用 （草花の栽培と活用）	・園芸装飾、フラワー装飾などの基礎技術を身に付ける。（園芸装飾技能士（室内園芸装飾）、フラワー装飾技能士、色彩検定3級程度）	○	○	○
7	・室内園芸装飾 ・フラワーデザイン				
9	園芸作物の栽培と活用 （ハーブの栽培と活用）	・草花、ハーブなどの栽培技術を身に付ける。	○	○	○
10	・野菜・ハーブの種類と特性	・ハーブのさまざまな利用方法を身に付ける。	○	○	○
11	・野菜・ハーブの栽培				
12	・野菜・ハーブの利用	・コンテナ栽培やハンギングバスケット、ベジタブルガーデンの基礎技術を身に付ける。	○	○	○
	・コンテナ栽培				
	園芸作物の栽培と活用	・花壇装飾などの基本を身に付ける。			

1	・花壇の活用と管理	・バリアフリーとユニバーサルデザインの基本を理	○	○	○
2	・バリアフリーとユニバーサルデザイン	解する。			

教科・科目（単位数）	農業・総合実習（2単位）	学年	2年
使用教科書・副教材等	草花(実教出版)	集団	22HR・ガーデン
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次の通り育成することをめざす。 (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。 (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。 (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・農業の各分野に関する総合的な知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。
② 思考・判断・表現	・農業の各分野における総合的な技術の習熟と、各科目における知識の確認と検証を通して総合的な技術に関する課題を発見し、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもって、農業各分野の専門的な内容について、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・農業の各分野における自らの職業生活について考えながら、農業の総合的な知識や技術、経営や管理について企画力や管理能力、活用技術などを学ぶ中で、農業の各分野への展開と活用を目指し、主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	③	④
4	平板測量の基礎	測量の歴史と器具の取り扱いに関する知識をもち、その測量技術を身につけ、発生する誤差について課題を解決する力を身につける。	○	○	
5	草花の栽培と活用	草花の栽培について基本的な技術を身につけ、ガーデンデザインと草花の活用について課題を発見し、解決する。	○	○	
6	平板測量に基づいた園芸装飾	平板測量の技術を活用し、適切なガーデンデザインについて理解する。園芸装飾の基本的な技術を身につける。また、園芸装飾を行う中で自らの課題を発見し調整する態度を養う。	○	○	○
7	平面図の活用	平板測量で身につけた技術を総合的に用いて、農場の平面図を作成する際に課題を調整しながら、主体的かつ協働的に取り組む。		○	○
9	伊豆の地形と測量の活用	伊豆地域の森林の成り立ちや森林整備についての基本的な知識を身につけ、森林保全と人とのかかわりを説明する技術を身につける。	○		
10	高低差と田方平野	田方平野の歴史と河川について学び、治水と測量の関わりについて理解する。	○		

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
1 1	水準測量の基礎	水準測量に関する基本的な知識と技術を身につける。	○		
1 2	レベルを用いた測量	オートレベルを用いた測量に関する理論と技術について理解し、自らの技術の課題を発見し、調整する態度を養う。		○	○
1	オートレベルとチルチングレベルを利用して校内の水利について学ぶ	昇降式野帳野鳥の記入を正確に理解し、必要な計算を行い、縦断面図を完成させるための技術を身につける。	○		
2	断面図を用いて、高低差と水平距離を測定する方法について理解し活用する。	測量についての基本的な知識を身につけ、場面に応じた課題を解決する力を養い、主体的かつ協働的に取り組む。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・草花（２）	学年	２年
使用教科書・副教材等	草花（実教出版）	集団	２２HR・ガーデン
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、草花の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）草花について体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 （２）草花に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。 （３）草花について特質を理解し、農業の各分野で理解できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的にかつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	・草花の生理・生態や生育環境などの草花生産に必要な知識と技術,草花生産の計画,管理,評価などの草花経営に関する知識と技術を体系的・系統的に理解し,身に付けている。
②思考・判断・表現	・草花の生産や経営に関して生産技術や生産工程,経費や流通・販売方法などの生産や経営に関する課題を発見し,地域の草花経営の実践事例や草花生産が果たす社会的な意義と役割などを踏まえるとともに,環境への配慮や法令遵守など,職業人に求められる倫理観をもって,科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	・草花の生産と経営の学習を通して,草花生産が人々の暮らしを豊かにする素材を提供し,生活環境を創造するという社会的な役割を担っていることを理解し,品質と生産性の向上を図るとともに,安全で安心できる草花の生産と経営を目指し,その振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み等）

月	単 元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	生活と草花の利用 ・草花の多面的利用 ・園芸デザイン	・草花の利用について基本的な知識を身に付けている。 ・生活や地域における草花の多面的に利用する能力を身につけている。	○	○	
5					
6		・園芸装飾に関わる技術を習得する中で、自らの課題に気付き修正する態度を身につけている。 ・園芸装飾（室内園芸装飾３級程度）の知識と技術を身につけ、協働的に作業に取り組むことができる。		○	○
7					
9	草花生産と消費の動向 ・草花園芸の特徴 ・草花生産と消費の動向	・草花生産と経営の特徴を理解し、知識を身につけている。 ・草花の活用に関する技術と能力を身につけている。	○	○	

10	生活と草花の利用 ・園芸デザイン	・草花の装飾的特徴性を生かし、利用方法について検討する過程で、植栽における課題に気づき創造的に解決することができる。		○	
11					
12		・草花の装飾的特性の応用について主体的に学ぶことができる。（花壇デザイン・コンテナガーデン・生け花）			○
1	草花の特徴と栽培技術	生産施設の基本的な知識を学び、創造的に課題を解決する能力を身につけている。	○	○	○
2	草花経営の改善				

教科・科目（単位数）	農業・草花（４）	学年	２年
使用教科書・副教材等	草花（実教出版）	集団	２２HR・フラワー
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）草花の生産と経営について体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）草花の生産と経営について生産品や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	- 草花の形態的特徴や生理的特性について理解している。 - 観察や実験・実習を通して科学的かつ創造的に学習を進め、草花の応用を図る実践力を身に付けている。
②思考・判断・表現	- 草花について性質や特徴を考察し、適切に取り扱う判断力を身に付けている。 - 草花を生活に取り入れることを考察し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	- 実習における責任や協働の経験を通して意欲を高めようとしている。 - 草花の種類やその特徴に関心をもち主体的に取り組もうとしている。
評価方法	- 知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート 等） - 記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク 等） - 学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み 等）

月	単 元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	草花生産と消費の動向 （１）草花園芸の特徴 （２）草花の生産形態	草花生産形態と経営の特徴を他の農作物と比べて理解する。	○		
		草花の生産と流通の課題発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身につける。		○	
5	（３）草花生産と消費の動向 生活と草花の利用 （１）繁殖方法の実践	草花の生産と流通のしくみを理解し消費の動きから輸出入の状況と課題を把握し理解する。	○		
		様々な草花の繁殖方法を実践し、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			○
6	（２）草花の多面的利用 （３）園芸デザイン 草花の特徴と栽培技術 （１）草花栽培の実践	草花利用の意義を理解し、特性を活かした活用について技術を身につけ、課題を解決する力を養う。		○	
		春まき草花の花壇苗や鉢ものの栽培管理方法を理解し実践する中で、主体的に取り組む態度を養う。			○

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
7	(2) 草花の生育と環境	草花の生育と環境要因との関係を学び、光合成について理解する。	○		
9	(3) 品種改良と繁殖 (4) 秋まき草花の利用	品種の重要性と品種改良の目的を理解し、品種改良の様々な方法を学び、課題を発見し解決する力を養う。		○	
		日長反応について理解し、苗物や鉢物の生産管理や流通について理解する。	○		
10	(5) 草花の生育と栽培技術 (6) 草花栽培の実践	草花の生育環境と適切な栽培技術を理解し、品質や草姿の調整技術を身につけ、主体的かつ協働的に取り組む。			○
11	(7) 生産施設と栽培環境の調節 (8) 草花栽培の実践	施設管理や資材の特徴を理解し、施設栽培の課題を発見し解決する。		○	
		花苗の販売促進のための手立てを考え、主体的かつ協働的に取り組む。			○
12	切り花生産 (1) 切り花生産の特色	切り花生産の経営と栽培の特徴を理解し、品質管理技術を身につける。	○		
1	(2) 切り花の栽培の特徴 (3) 球根の切り花	切り花温室の土壌状態を理解し、生育に適した肥料や土壌の基本的な知識と技術を身につける。	○		
		球根類の生理的特性や増殖技術について理解し、課題を発見し解決する力を養う。		○	
2	農薬管理と環境整備 (1) GAP に基づいた農薬管理	GAP の考え方を理解し、使用している施設の課題を発見し解決に向けて取り組む態度を養う。			○

教科・科目（単位数）	農業・課題研究（１）	学年	２年
使用教科書・副教材等	なし	集団	22HR
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 （２）農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 （３）課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	・課題の解決に向けた学習を通して、専門的な知識を深化させている。課題解決に向けて合理的に計画し、調査・研究・実験を通して、各科目で学習した知識と技術を再認識し、その技術を適切に活用している。
②思考・判断・表現	・農業に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	・農業に関する課題について興味・関心を持ち、課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。

評価方法	調査、実験、分析、まとめ、発表の内容および取り組み 知識・技術の点検、確認（レポート、資格取得 等） 記述の点検、確認（レポート、製作物への取り組み 等） 学習状況の観察、確認（レポート、製作物のへの取り組み、資格取得への取り組み 等）
------	---

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	農業クラブ活動への理解と課題研究の基本的な知識の習得	農業クラブ活動の見方・考え方を理解している。	○		
5		課題の設定方法や情報収集の方法など、課題研究の基本的な技術を身につけている。		○	
6 7	情報収集の方法とシンキングツールの活用	課題研究に活用できる情報収集の方法や情報を整理する方法について理解する。さらに、身につけた技術を活用し、学科の特色を生かした情報整理を実践し、意欲的に取り組んでいる。	○		○
9 10 11 12	地域の問題について課題を設定し解決方法をさぐる	課題の解決に向けた学習を通して、専門的な知識を深化させて課題を発見し、身につけた技術を適切に活用して調査、研究に取り組む。	○		
		課題の解決に取り組む中で思考を深め、合理的な解決方法をさぐり体系的な研究を行うことができる。		○	
		自発的に調査に取り組む実践的な態度を身につけている。			○
1 2	農業に関わる問題について課題を設定し解決方法をさぐる	課題について自らの学習を生かした課題解決方法を用いている。	○		
		課題の解決に取り組む中で思考を深め、合理的な解決方法をさぐり体系的な研究を行うことができる。		○	
		自発的に調査に取り組む実践的な態度を身につけている。			○

教科・科目（単位数）	農業・造園施工管理（3）	学年	2 年
使用教科書・副教材等	造園施工管理（東京電機大学出版）	集団	22HR ガーデンデザインコース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、造園施工管理の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 造園施工管理について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 造園施工管理に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 造園施工管理について目的や環境に応じた合理的な施工と維持管理につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	緑地環境や造園空間の機能と造園が果たす社会的な役割を理解する。また、造園材料の特質と合理的な施工や管理ができる技術を身につける。
② 思考・判断・表現	造園施工管理の意義を理解することにより、持続可能な循環型社会に適応できる資質や合理的、創造的に解決する力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	造園施工を取り巻く環境や意義、特色と役割を理解し、緑地環境における体験的、継続的な観察・実験・調査・記録等の学習を主体的、創造的に取り組み、協働を育む。
評価方法	観点別評価に準じる。授業の取り組み、姿勢や創意工夫、探究心の実践等を考慮する。課題樹木レポートや、樹木の正しい剪定手法の理解度および、竹垣・ロープワークや造園施工材料を使用しての創意工夫などでの作品をとおして評価を行う。

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	施設施工管理 1	樹木と剪定手法について 1 (概論)。樹木管理と人間生活上の関連と、樹勢について理解を深める。	○		○
	垣の施工	実習 1 生垣の切り詰め剪定 1。剪定手法により、枝葉の発芽や、剪定後の樹木管理が異なることの理解を深める。	○	○	○
		剪定道具および脚立の使用方法和安全教育。 労働安全法令の遵守および、労働災害について理解を深める。	○	○	○
5	施設施工管理 2	ロープワーク 1 (うの首結び、男結び)。日本古来の造園伝統手法の習得や、荷物落下における事故を防ぐ教育を育む。	○		○
	垣の施工	実習 2 生垣の切り詰め剪定 2。剪定手法により、枝葉の発芽や、剪定後の樹木管理が異なることの理解を深める。	○		○
		樹木と剪定手法について 2 (樹木の樹形仕立てについて)。剪定手法により、枝葉の発芽や、剪定後の樹木管理が異なることの理解を深める。	○	○	○
6	施設施工管理 3	樹木と剪定手法について 3 (樹木の生長周期から考える)。針葉樹、広葉樹では材の組織が違ふことの理解を深化させる。また、樹木の負担の少ない剪定時期があることを理解する能力を養う。	○		○
	垣の施工	実習 3 自然風剪定(透かし剪定)。剪定手法により、枝葉の発芽や、剪定後の樹木管理が異なることの理解を深める。	○	○	○
		ロープワーク 2 (男結び、南京結び)。日本古来の造園伝統手法の習得や、荷物落下における事故を防ぐ教育を育む。	○		○
	施設施工管理 4	実習 4 自然風剪定(透かし剪定)。剪定手法により、枝葉の発芽や、剪定後の樹木管理が異なることの理解を深める。	○	○	○

7	垣の施工	樹木と剪定手法について4(花木と花芽分化期から考える)。花木には樹種ごとに花芽をつける時期が違ふことの理解を深化させ、剪定を行っても、開花、結実する時期や剪定手法を養う。	○	○	○
		夏季実習(外部講師依頼)。実践的な実習を行い、実技と理論の理解を深化する能力を養う。	○		○
9	造園材料の種類と特性 木材・竹材	性状、特性による分類。樹体、竹類の解剖を行い、各造園材料の性質の違いを理解、深化する能力を養う。	○		○
		素材・規格・用途について。工事発注者は必ず仕様書を請負人に渡す。仕様書を理解させ、施工場所の違いにより材料が変わることを理解する能力を養う。	○		○
		ロープワーク3(男結び、石畳結び)。日本古来の造園伝統手法の習得や、荷物落下における事故を防ぐ教育を育む。			
10	庭園施工工1 四つ目垣	造園材料の種類と特性・特徴。造園技能手法に必ず用いられる材料、竹類に着目し、施工用途の違いにより、使用する竹材も異なることを理解する能力を養う。	○		○
		造園工具の使用方法和注意。造園工事道具は48種類ある。施工管理によく使用される道具の使い方やコツ、管理方法を理解する能力を養う。	○	○	○
	石の施工1	ロープワーク4(男結び、搔きつけ)。日本古来の造園伝統手法の習得や、荷物落下における事故を防ぐ教育を育む。	○	○	○
		ミニチュア石組の制作(枯山水)。学校祭展示と学習成果を披露し、探求学習の基礎とする。	○	○	○
11	庭園施工工2 四つ目垣	四つ目垣の制作1。プロジェクト学習、国家検定「3級造園技能検定」について、知識と技術を養う。	○		○
		四つ目垣の制作2 美と用。プロジェクト学習、国家検定「3級造園技能検定」について、知識と技術を養う。	○	○	○
	石の施工2	ミニチュア石組の制作(枯山水)。学校祭展示と学習成果を披露し、探求学習の基礎とする。	○	○	○
12	庭園施工工3 造園材料の種類と特性1	小庭園の作庭。プロジェクト学習、国家検定「3級造園技能検定」について、知識と技術を養う。	○		○
		石材(岩石の分類)。プロジェクト学習、国家検定「3級造園技能検定」について、知識と技術を養う。	○		○
		層理と節理。枯山水式庭園の石組(岩組)学習をとおして、造園材料の必須となる石材の物理科学的要素の知識を養う。	○		○
1	造園材料の種類と特性2	庭石の産地。伊豆石をとおして、全国各地で産出される石材の特徴や庭園での使い場所等の理解を深化し、養う。	○		○
		小庭園での石材の施工。プロジェクト学習、国家検定「3級造園技能検定」について、知識と技術を養う。	○	○	○
		飛石の施工。茶庭や日本庭園作庭での伝統手法を实践、理解させる。プロジェクト学習、国家検定「3級造園技能検定」について、知識と技術を養う。	○	○	○
2	施設施工管理5 垣の施工	樹木医学を根拠とする自然風剪定手法。剪定による樹木のダメージを極力抑える剪定手法の理解を深化し、養う。	○		○
		枝下ろし剪定。剪定による樹木のダメージを極力抑える剪定手法の理解を深化し、養う。	○		○
		樹木の腐朽。倒木による人、車、家屋を守るための予防的手法の理解と技術を修める。また、腐朽菌について、誤った剪定手法により発生することを理解させ、知識の理解や予防策の探求を育む。	○		○

教科・科目（単位数）	農業・造園計画（3）	学年	2 年
使用教科書・副教材等	造園計画（海文堂出版）	集団	22HR・ガーデンコース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、造園計画の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）造園計画について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）造園計画に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）造園計画について目的や環境に応じた造園空間の創造につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	造園計画について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。
② 思考・判断・表現	造園計画に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力が身についている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	造園計画について目的や環境に応じた造園空間の創造につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	観点別評価に準じる。授業の取り組み、姿勢や創意工夫、探究心、プロジェクト学習が科学的かつ創造的に学習が進めることができるかを考慮する。作品「個人住宅庭園設計」および「ミニチュア石組み」の評価を行う。また、庭園見学のレポートも加味する。

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	造園計画の意義と緑地環境の役割	生活と緑地環境。景観の提供、微気象の調節、やすらぎの場の提供などの緑地の役割を理解する能力を養う。	○		○
		造園計画と造園空間。造園空間創造における造園計画の意義を理解し、計画や設計における課題について理解する能力を養う。	○		○
		個人住宅庭園設計：造園製図の基本1。庭園等の計画・設計に係る技術を理解させ、関連する技術を身に付ける。	○		○
5	環境と造園様式1	造園史：古代(有史以前)の造園。我が国の緑地環境と造園様式と密接に係る思想等を理解する能力を養う。	○		○
		個人住宅庭園設計：造園製図の基本2。造園デザインと造園製図について理解を深め、関連する技術を身に付ける。	○		○
		造園製図の基本：文字、線、用具類。デザインの技法、基礎デザインの要素等の技術を身に付ける。	○	○	○
6	環境と造園様式2	造園史：古代(飛鳥・奈良・平安期)の造園。我が国の緑地環境と造園様式と密接に係る思想等を理解する能力を養う。	○		○
		個人住宅庭園設計：門廻りの設計。庭園等の計画・設計に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて解決する能力を養う。	○	○	○
		造園製図の基本：文字、線、用具類。デザインの技法、基礎デザインの要素等の技術を身に付ける。	○	○	○
7	環境と造園様式3	造園史：中世(鎌倉期)の造園。我が国の緑地環境と造園様式と密接に係る思想等を理解する能力を養う。	○		○

9	環境と造園様式 4	造園史：中世(室町前期)の造園。我が国の緑地環境と造園様式と密接に係る思想等を理解する能力を養う。	○		○
		個人住宅庭園設計：駐車場の設計。庭園等の計画・設計に関する課題を発見し,科学的な根拠に基づいて解決する能力を養う。	○	○	○
10	環境と造園様式 5	造園史：中世(室町後期)の造園。我が国の緑地環境と造園様式と密接に係る思想等を理解する能力を養う。	○		○
		個人住宅庭園設計：アプローチの設計。庭園等の計画・設計に関する課題を発見し,科学的な根拠に基づいて解決する能力を養う。	○	○	○
		造園史：庭園見学およびミニチュア石組の製作。我が国の緑地環境と造園様式と密接に係る思想等を理解する能力を養う。	○	○	○
11	環境と造園様式 6	造園史：中世(室町末期)の造園。我が国の緑地環境と造園様式と密接に係る思想等を理解する能力を養う。	○		○
		個人住宅庭園設計：メインガーデンの設計。庭園等の計画・設計に関する課題を発見し,科学的な根拠に基づいて解決する能力を養う。	○	○	○
		学校祭に向けての作品作り。自ら学び,主体的かつ共同的に取り組む姿勢を養う。	○	○	○
12	環境と造園様式 7	造園：安土桃山時代の庭園(茶庭)。我が国の緑地環境と造園様式と密接に係る思想等を理解させる。	○		○
		個人住宅庭園設計：メインガーデンの設計(ウッドデッキ)。庭園等の計画・設計に関する課題を発見し,科学的な根拠に基づいて解決する能力を養う。	○	○	○
		造園製図の基礎：製図用紙およびトレース。デザインの技法,基礎デザインの要素等の技術を身に付ける。	○	○	○
1	環境と造園様式 8	造園：安土桃山時代の庭園(茶庭)。我が国の緑地環境と造園様式と密接に係る思想等を理解する能力を養う。	○		○
		個人住宅庭園設計：メインガーデンの設計(テラス,濡れ縁)。	○	○	○
		造園製図の基礎：着彩具。製図用紙およびトレース。デザインの技法,基礎デザインの要素等の技術を身に付ける。	○	○	○
2	環境と造園様式 9	造園：安土桃山時代の庭園(茶庭)。我が国の緑地環境と造園様式と密接に係る思想等を理解する能力を養う。	○		○
		個人住宅庭園設計：日本庭園の設計(沓脱ぎ石,飛石)。庭園等の計画・設計に関する課題を発見し,科学的な根拠に基づいて解決する能力を養う。	○	○	○
		造園製図の基礎：着彩具。製図用紙およびトレース。デザインの技法,基礎デザインの要素等の技術を身に付ける。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・植物バイオテクノロジー（２）	学年	３年
使用教科書・副教材等	植物バイオテクノロジー（実教出版）	集団	32HR・フラワー
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、植物バイオテクノロジーの利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）植物バイオテクノロジーについて体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 （２）植物バイオテクノロジーに関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。 （３）植物バイオテクノロジーについて特質を理解し、農業の各分野で理解できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的にかつ協働的に取り組む。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	・植物体の持つ分化全能性などの特性やバイオテクノロジーの技術的特質、無菌操作から培養、順化等の一連の知識と技術、植物遺伝情報の利用等の仕組みなど、植物バイオテクノロジーに関する知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。
② 思考・判断・表現	・農業の各分野における植物バイオテクノロジーの利用に関する課題を発見し、農業への実践事例や植物バイオテクノロジーが果たす社会的な意義と役割などを踏まえるとともに、環境への配慮や法令遵守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・植物バイオテクノロジーの学習を通して、農産物等の品質改善や品種改良、生産性の向上を図るとともに、安全で安心できる農産物の生産や生活環境の創造を目指し、植物バイオテクノロジーを活用した農業及び関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み等）

月	単 元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4 5	植物バイオテクノロジーの意義と役割 ・生物の機能とバイオテクノロジー ・バイオテクノロジーの歴史とあゆみ	バイオテクノロジーの意味を理解する。	○		
		バイオテクノロジーの歴史を知る。	○		
		社会とバイオの関係性について表現することができる。		○	
6 7	植物バイオテクノロジーの基礎 ・植物のからだ ・植物の細胞分裂と分化	植物のからだのなりたちを知り、植物細胞の構造と機能を理解する。	○		
		植物の分化全能性と組織培養の原理を理解する。	○		

		分化,脱分化に及ぼす植物ホルモンの役割を知り、利用方法を表現することができる。		○	
9	植物組織培養の基礎	組織培養と,その方法を理解する。	○		
10	・組織培養とは何だろう	培地成分の重要性を理解し,培地の調整方法を学ぶ。	○		
	・組織培養の方法	培地調整へ意欲的に取り組んでいる。			○
11	植物組織培養の基礎	培養組織や植物体の生育に必要な条件を理解する。	○		
12	・組織培養の方法	組織培養の施設と機器・器具の取り扱い方を理解し、正確に使用することができる。		○	
	・組織培養の施設と機器・器具	無菌操作を理解し、意欲的に取り組んでいる。			○
1	植物組織培養の実際	組織片の培養の特徴や目的について理解する。	○		
2	・モウセンゴケの継代培養	器官や組織から,植物体が再生する原理を表現することができる。		○	
	・キクの花弁培養	ラン類の生育に必要なラン菌の働きと無菌播種との関わりを理解する。	○		
	・ユリの鱗片培養				
	・トルコキキョウの葉片培養				
	・サクラソウ（プリムラ）の器官培養	無菌播種法と共生培養法の技術を習得へ意欲的に取り組んでいる。			○
	・シランの無菌播種と培養				

教科・科目（単位数）	農業・生物活用（４単位）	学年	３年
使用教科書・副教材等	生物活用（実教出版）	集団	32HR・フラワー
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、園芸作物や社会動物の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）生物活用について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）生物活用について、生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・園芸や社会動物が人の健康にもたらす効用の体験や生物を活用した交流活動などのプロジェクト学習を通して、緑のある環境・園芸・社会動物の健康効果と交流対象となる人の発達段階や健康についての基礎的な知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。
② 思考・判断・表現	・地域に暮らす人々の健康に関する課題を発見し、緑のある環境や園芸、社会動物とのふれあいや飼育が健康増進につながるよう科学的な根拠に基づいて交流活動を計画し、職業人としての倫理観をもって安全で安心して参加できる交流活動に発展させ、生物活用に関する課題について創造的に科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・園芸や社会動物を活用する学習を通して、地域の人々の生活の質の向上を目指し、健康増進を付加した農業の振興や社会貢献に、自ら課題解決に向けた意識をもって主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、レポート、作品等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	生物活用の意義と役割	・植物とふれ合い、活用して、思いやることの意義と役割を理解し、態度を養う。	○	○	○
5	・生物活用の意義と役割 ・植物・園芸と人間生活	・植物および園芸の多面的な利用について理解する。	○	○	○
6	園芸作物の栽培と活用	・植物の装飾的特性を理解する。	○	○	○
7	（草花の栽培と活用）	・植物を扱うさいの留意点を理解する。			
9	・草花の種類と特性	・ワイヤリングテクニックを身に付ける。			
10	・園芸デザイン	・プレスフラワーの活用方法を身に付ける。			
11	・花壇の活用と管理	・コサージュ、ブートニアの制作方法を身に付ける。			
12	・フラワーデザイン	・ブーケの制作方法を身に付ける。	○	○	○
1	・室内園芸装飾	・幾何学的形態を学び、季節と行事に合わせたアレンジメントを理解し、制作方法を身につける。			
2		・色彩における知識を身につける。			
		・園芸装飾、フラワー装飾などの技術を身に付ける。 （園芸装飾技能士（室内園芸装飾）、フラワー装飾技能士、色彩検定２～３級程度）			

教科・科目（単位数）	農業・総合実習（2単位）	学年	3年
使用教科書・副教材等	草花(実教出版)	集団	32HR・ガーデン
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次の通り育成することをめざす。 (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。 (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。 (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・農業の各分野に関する総合的な知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。
② 思考・判断・表現	・農業の各分野における総合的な技術の習熟と、各科目における知識の確認と検証を通して総合的な技術に関する課題を発見し、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもって、農業各分野の専門的な内容について、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・農業の各分野における自らの職業生活について考えながら、農業の総合的な知識や技術、経営や管理について企画力や管理能力、活用技術などを学ぶ中で、農業の各分野への展開と活用を目指し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	③	④
4	草花の生育と栽培技術と繁殖	花壇用草花の基本的な増殖方法や栽培方法について基本的な知識を身につける。 草花の繁殖技術を身につけ、協働的に作業する態度を身につけている。	○		○
5	草花の栽培管理	草花の生育状況を観察し、栽培方法における課題を設定し創造的に解決する能力を身につけている。		○	
6	草花生産と消費の動向	国内外における生産の変化や消費の状況等の知識を身につけ、最適な栽培計画をたてることができる。	○		
7	草花の生産と経営	国内における草花栽培の課題を発見し、創造的に解決する知識や技術を身につけている。	○	○	○
9	秋播きの草花の生産と栽培技術と繁殖	花壇用草花の基本的な増殖方法や栽培方法について基本的な知識を身につける。 草花の繁殖技術を身につけ、協働的に作業する態度を身につけている。	○		○
10	生活と草花の利用	様々な花壇についてその特性を理解し、環境にあった花壇のデザインを考え実践する技術を身につけている。	○	○	

1 1	園芸デザイン	花壇作成の実践において、主体的に作業する態度を身につけている。			○
1 2	鉢物生産と繁殖	鉢物生産の特色を理解し、栽培管理の技術を身につけている。	○		
1	経営改善プロジェクト	国内の草花経営の改善事例を学び、それぞれの課題に気づき創造的に解決する能力を身につけている。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・課題研究（２）	学年	３年
使用教科書・副教材等	なし	集団	32HR
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 （２）農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 （３）課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	・課題の解決に向けた学習を通して、専門的な知識を深化させている。課題解決に向けて合理的に計画し、調査・研究・実験を通して、各科目で学習した知識と技術を再認識し、その技術を適切に活用している。
② 思考・判断・表現	・農業に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・農業に関する課題について興味・関心を持ち、課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。

評価方法	調査、実験、分析、まとめ、発表の内容および取り組み 知識・技術の点検、確認（レポート、資格取得 等） 記述の点検、確認（レポート、製作物への取り組み 等） 学習状況の観察、確認（レポート、製作物のへの取り組み、資格取得への取り組み 等）
------	---

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	研究課題設定 研究の開始	・個人またはグループで課題を設定し、指導担当者より提示された研究課題の計画を立案、実行する。	○	○	○
		・調査、研究、実験の記録 ・作品製作、職業資格の取得、学校農業クラブ活動(プロジェクト活動等)	○	○	○
5	研究 1学期中間報告	・調査、研究、実験の記録 ・作品製作(コンテストやコンクールへの応募、住宅庭園の製図制作)	○	○	○
6	1学期期末報告	・産業現場等における実習	○	○	○
7		・職業資格の取得(フラワーデザイン、園芸装飾、造園、測量、農業技術検定) ・学校農業クラブ活動(プロジェクト活動 等)			
9	研究 2学期中間報告	・調査、研究、実験の記録 ・作品製作(コンテストやコンクールへの応募、住宅庭園の製図制作)	○	○	○
10	中間報告発表	・職業資格の取得(フラワーデザイン、園芸装飾、造園、測量、農業技術検定)			
12	2学期期末報告	・学校農業クラブ活動(プロジェクト活動 等)			
1	研究 研究報告会	・調査、研究、実験の記録 ・作品製作(コンテストやコンクールへの応募、住宅庭園の製図制作) ・職業資格の取得(フラワーデザイン、園芸装飾、造園、測量、農業技術検定) ・学校農業クラブ活動(プロジェクト活動 等)	○	○	○
2	年間報告書提出	・プレゼンテーション作成 ・課題研究報告書提出			

教科・科目（単位数）	農業・造園施工管理（４単位）	学年	３年
使用教科書・副教材等	文部科学省編高等学校用「造園施工管理」（東京電機大学出版）	集団	32HRガーデンデザインコース
農業高校における園芸デザイン科としての目標 造園施工管理を実践的、体験的な学習活動を行うことをとおして、必要な資質・能力を養う。 科目の目標 （１）体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する能力を養う。 （３）合理的な施工と維持管理につながるよう自ら学び、主体かつ協同的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	緑地環境や造園空間の機能と造園が果たす社会的な役割を理解する。また、造園材料の特質と合理的な施工や管理ができる技術を身につける。
②思考・判断・表現	造園施工管理の意義を理解することにより、持続可能な循環型社会に適応できる資質や合理的、創造的に解決する力を養う。
③主体的に学習に取り組む態度	造園施工を取り巻く環境や意義、特色と役割を理解し、緑地環境における体験的、継続的な観察・実験・調査・記録等の学習を主体的、創造的に取り組み、協働を育む。
評価方法	観点別評価に準じる。授業の取り組み、姿勢や創意工夫、探究心の実践等を考慮する。竹垣・飛石、中低木配置・下草類、蹲踞・笕・延段、支柱等の制作に関わる造園施工材料を使用し、創意工夫などでの作品をとおして評価を行う。

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	庭園施工工 1 四つ目垣	四つ目垣の制作 1。プロジェクト学習の一環である国家検定「３級造園技能検定」についての知識と技術を養う。	○	○	
	敷石工 1	石材の施工(設置)方法を培う。また、プロジェクト学習の一環である、国家検定「３級造園技能検定」について、知識と技術を養う。	○	○	
5	庭園施工工 2 四つ目垣	ロープワーク 1。竹垣の必須要素である男結び(二の字結び、綾掛け)の技術の習得をする。	○	○	○
	敷石工 2	石材の施工(設置)方法を培う。飛石、縁石、玉石等の配置の技術の習得をする。	○	○	○
6	庭園施工工 3	四つ目垣の制作 2。プロジェクト学習の一環である国家検定「３級造園技能検定」についての知識と技術を養う(振り返り学習)。	○	○	○
	敷石工 3	石材の施工(設置)方法を培う。また、プロジェクト学習の一環である、国家検定「３級造園技能検定」について、知識と技術を養う(振り返り学習)。	○	○	○
7	庭園施工工 4	四つ目垣の制作 3。四つ目垣の小庭園の作庭を行う。４月、５月、６月で養った技術を使い、課題制作を行う。国家検定「３級造園技能検定」、実技課題の総練習を行う。	○	○	○

9	工作物の管理 1	支柱の制作 1。作庭に必要な支柱の種類である八掛けの設置方法と技術を養う。	○	○	
	石灯籠	樹木の伝統的配植技法を学び,石灯籠の種類や向き,高さ,据え方の技術を養う(築山庭造傳)。	○		
10	工作物の管理 2	支柱の制作 2。作庭に必要な支柱の種類である二脚鳥居支柱の設置方法と技術を養う。	○	○	○
	池泉工	蹲踞の制作。茶庭の作庭に必要な知識技能と,国家検定「1級造園技能検定」の小庭園の作庭に関わる技術を養う。	○		○
11	工作物の管理 2	支柱の制作 2。作庭に必要な支柱の種類である二脚鳥居支柱の設置方法と技術を養う(継続学習)。	○	○	○
	池泉工	蹲踞の制作。茶庭の作庭に必要な知識技能と,国家検定「1級造園技能検定」の実技課題の作庭に関わる技術を養う(継続学習)。	○		○
12	庭園施工工 5	四つ目垣(真)の制作。茶庭の作庭に必要な知識技能と,国家検定「2級造園技能検定」の実技課題の作庭に関わる技術を養う。	○	○	○
	敷石工 4	延段(行)の制作。茶庭の作庭に必要な知識技能と,国家検定「2級造園技能検定」の実技課題の作庭に関わる技術を養う。	○	○	
1	庭園施工工 5	四つ目垣(真)の制作。茶庭の作庭に必要な知識技能と,国家検定「2級造園技能検定」の実技課題の作庭に関わる技術を養う(継続学習)。	○	○	○
	敷石工 4	延段(行)の制作。茶庭の作庭に必要な知識技能と,国家検定「2級造園技能検定」の実技課題の作庭に関わる技術を養う(継続学習)。	○	○	
2	庭園施工工 6	根巻き実習。造園資材(根巻)を用いて,日本の伝統手法である根巻に関わる知識技術を養い,緑地環境の改善に努める職業人の育成を行う。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・造園植栽（2単位）	学年	3年
使用教科書・副教材等	造園植栽（実教出版）	集団	32HRガーデンデザインコース
農業高校における園芸デザイン科としての目標 実践的・体験的な学習活動を行うことなどをおして、造園植栽に必要な資質・能力を育成する。 科目の目標 （１）造園植栽について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）造園植栽に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）造園植栽について目的や環境に応じた合理的な植栽につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	造園植栽と造園計画・設計や造園施工管理と関連させながら、植物の特性を活かした植栽施工や景観に配慮した植栽管理に関する知識と技術を身につけるようにする。
②思考・判断・表現	造園植栽について合理的に施工、維持管理するとともに、植栽材料を適切に取り扱う能力と職業人として科学的な根拠などに基づいて課題を想像的に解決する力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	造園植栽学習をとおして、植栽材料の特性を見極めた施工法等を理解し、造園の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
評価方法	観点別評価に準じる。授業の取り組み、姿勢や創意工夫、探究心の実践等を考慮する。また、定期テスト、樹木鑑定レポート類、実習の取り組みも加味する。

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	造園植栽の意義	造園計画の流れを復習し、造園の役割について知識を身につけている。	○		
5	造園植栽の特色と役割	造園植栽の現状に見られる課題に気づき、これまでの知識を基に創造的に解決する力を身につけている。		○	
		都市緑化の観点から、室内緑化が生活に与える影響について主体的に学び、協働的に作業に取り組む態度を身につけている。			○
6	草花の活用	植栽に利用する草花について、栽培方法や植栽方法について知識と技術を身につけている。	○		
		草花を利用した花壇の種類や最適なデザインについて主体的に学び、それぞれのデザインについて課題に気づき解決に向けて創造的に取り組む態度を身につけている。		○	○
7	植栽の具体的デザイン	植物の特性と植栽構造について知識を身につけ。植栽の配分について課題を発見し創造的に解決する事ができる。	○	○	
9	造園施工とプロセス	造園施工に必要な法規について知識を身につけている。また施工計画をするうえで環境アセスメントについて必要な知識や技術を身につける。	○		
	・樹木・地被植物 ・草花類の植栽	樹木や地被植物の施工について必要な知識や技術を身につけ、協働的な作業に主体的に取り組むことができる。		○	

10	造園植物	造園樹木の基本的な知識を身につけ適切な管理を行う技術を身につけている。	○	○	
		配植の手法について基本的な知識を見つけ、課題解決に向けて創造的に技術を活用できる。		○	
		組み合わせ植栽の平面図について基本的な知識を身につけ技術を活用できる。	○		
11	地被類の植栽 ・植栽管理	地被類の植栽について基本的な技術や知識を身につけている。また、それらを適切に活用できる。	○	○	
		植栽管理について適切な知識と技術を身につけ、その実践において協働的な作業を行うことができる。	○		○
12	設計図面に必要な知識を身につけている。	製図に必要な知識や技術を身につけ、実際の製図から課題を発見し、その解決に向けて協働的、創造的な方法で取り組むことができる。	○	○	
1	プレゼンテーション	自ら設定した実際の植栽において、プレゼンテーションを行う中で造園植栽における課題や、課題解決の方法について提示し、協働的に解決策を実践することができる。	○	○	○
2	プレゼンテーションⅡ	提案したプレゼンテーションについて改善し計画を見直すことができる。			○

教科・科目（単位数）	農業・造園計画（３）	学年	３年
使用教科書・副教材等	教科書 造園計画（文部科学省編 海文堂出版） 自作プリント、資料等	集団	32HRガーデンデザインコース
農業高校における園芸デザイン科としての目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどをおして、造園計画に必要な資質・能力を養う。２年次科目「造園計画」の継続である。 科目の目標 （１）造園計画について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）造園計画に関する課題を発見し、農業や農業関連作業に携わる者として合理的かつ、創造的に解決する力を養う。 （３）造園計画について目的や環境に応じた造園空間の創造につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体かつ協同的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	個人住宅庭園設計(エクステリア製図), 造園空間の持つ機能を理解し, 用と美のデザインを盛り込んだ設計及び, 平面図・立面図の作成に関わる知識と技術を身に付けているか。
②思考・判断・表現	造園空間の計画・設計の課題を発見し, 造園が果たす社会的な意義と役割を踏まえ, 目的や環境に応じた空間を創造する能力と倫理観, 科学的な見地にに基づき, 造園空間を創造的に解決できる力を培っているか。
③主体的に学習に取り組む態度	造園計画の学習をおして, 国土緑化保全や産業の振興, 社会貢献に主体的かつ, 協同的に取り組む態度ができているか。
評価方法	３観点による評価。定期テスト, レポート類, 個人住宅庭園設計(平面図・立面図)のできばえ。製図を可視化するための個人住宅庭園模型の製作及び, できばえ。

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	造園製図と造園デザインの基礎 1	2年次から引き継いだ個人住宅庭園設計を行い, 設計知識と技術を養う。主庭の有効活用法を探究する(テラスや樹木の規格)。	○	○	○
	我が国の環境と造園様式 1	安土桃山時代に至る造園史について学習し, 先人が残した作庭の技法やコンセプト等を理解する(築山庭造傳, 都林泉絵図)。	○		○
5	造園製図と造園デザインの基礎 2	個人住宅庭園設計(平面図立案)の主庭(洋室)に関わる設計知識と技術を養い, 探究する(樹木の規格, 配植, 氣勢)。	○	○	○
	我が国の環境と造園様式 2	江戸時代初期に至る造園史について学習し, 先人が残した作庭技法やコンセプト等を理解する(築山庭造傳, 都林泉絵図)。	○		○
6	造園製図と造園デザインの基礎 3	個人住宅庭園設計(平面図立案)の主庭(和室)に関わる設計知識と技術を養い, 探究する(濡れ縁, 石灯籠, 延段, 蹲踞, 飛石)。	○	○	○
	我が国の環境と造園様式 3	江戸時代中期に至る造園史について学習し, 先人が残した作庭技法やコンセプト等を理解する。(築山庭造傳, 都林泉絵図)	○		○

7	造園製図と造園デザインの基礎 4	個人住宅庭園設計(平面図立案)の主庭(和室)に関わる設計知識と技術を養い,探求する(濡れ縁,石灯籠,延段,蹲踞,飛石)。	○	○	○
	我が国の環境と造園様式 4	明治時代に至る造園史について学習し,先人が残した作庭技法やコンセプト等を理解する。	○		○
9	造園製図と造園デザインの基礎 5	個人住宅庭園設計(立面図立案)を行い,住宅庭園(エクステリア)の詳細図作成及び,トレーシングペーパーに複写する。	○	○	○
	我が国の環境と造園様式 5	明治時代における都市公園制度設計について学習し,先人が残した作庭技法やコンセプト等を理解する。	○		○
10	造園製図と造園デザインの基礎 6	色彩学の学習を行い,視覚による調和を理解させる。また,製図用色彩マーカー用具を利用し,個人住宅庭園設計図面に着彩する。	○	○	○
	我が国の環境と造園様式 6	大正時代における自然公園制度設計について学習し,先人が残した自然保護のコンセプトや構想等を理解する。	○		○
11	造園製図と造園デザインの基礎 7	色彩学の学習を深化させ,個人住宅庭園設計の着彩を完成させる。学校祭で作品を造園業者や教職員でコンテストを行う。	○	○	○
	我が国の環境と造園様式 7	明治,大正期に行われた田園都市構想のコンセプトや構想等を理解する。	○		○
12	造園製図と造園デザインの基礎 8	個人住宅庭園設計を可視化するため,住宅庭園模型の製作を行う。生徒が製図の不備に気がつき,課題解決学習を養う。	○	○	○
1	造園製図と造園デザインの基礎 9	個人住宅庭園設計を可視化するため,住宅庭園模型の製作を行う。生徒が製図の不備に気がつき,課題解決学習を養う。	○	○	○
2	造園製図と造園デザインの基礎 10	完成した個人住宅庭園設計模型,着彩した製図をもとに,発表会を行う。プレゼンテーションの能力を養う。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・植物バイオテクノロジー（３）	学年	２年
使用教科書・副教材等	植物バイオテクノロジー（実教出版）	集団	22HR・フラワー
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、植物バイオテクノロジーの利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）植物バイオテクノロジーについて体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 （２）植物バイオテクノロジーに関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。 （３）植物バイオテクノロジーについて特質を理解し、農業の各分野で理解できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的にかつ協働的に取り組む。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	・植物体の持つ分化全能性などの特性やバイオテクノロジーの技術的特質、無菌操作から培養、順化等の一連の知識と技術、植物遺伝情報の利用等の仕組みなど、植物バイオテクノロジーに関する知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。
② 思考・判断・表現	・農業の各分野における植物バイオテクノロジーの利用に関する課題を発見し、農業への実践事例や植物バイオテクノロジーが果たす社会的な意義と役割などを踏まえるとともに、環境への配慮や法令遵守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・植物バイオテクノロジーの学習を通して、農産物等の品質改善や品種改良、生産性の向上を図るとともに、安全で安心できる農産物の生産や生活環境の創造を目指し、植物バイオテクノロジーを活用した農業及び関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み等）

月	単 元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4 5	植物バイオテクノロジーの意義と役割 ・生物の機能とバイオテクノロジー ・バイオテクノロジーの歴史とあゆみ	バイオテクノロジーの意味を理解する。	○		
		バイオテクノロジーの歴史を知る。	○		
		社会とバイオの関係性について表現することができる。		○	
6 7	植物バイオテクノロジーの基礎 ・植物のからだ ・植物の細胞分裂と分化	植物のからだのなりたちを知り、植物細胞の構造と機能を理解する。	○		
		植物の分化全能性と組織培養の原理を理解する。	○		

		分化,脱分化に及ぼす植物ホルモンの役割を知り、利用方法を表現することができる。		○	
9	植物組織培養の基礎	組織培養と,その方法を理解する。	○		
10	・組織培養とは何だろう	培地成分の重要性を理解し,培地の調整方法を学ぶ。	○		
	・組織培養の方法	培地調整へ意欲的に取り組んでいる。			○
11	植物組織培養の基礎	培養組織や植物体の生育に必要な条件を理解する。	○		
12	・組織培養の方法	組織培養の施設と機器・器具の取り扱い方を理解し、正確に使用することができる。		○	
	・組織培養の施設と機器・器具	無菌操作を理解し、意欲的に取り組んでいる。			○
1	植物組織培養の実際	組織片の培養の特徴や目的について理解する。	○		
2	・モウセンゴケの継代培養	器官や組織から,植物体が再生する原理を表現することができる。		○	
	・キクの花弁培養	ラン類の生育に必要なラン菌の働きと無菌播種との関わりを理解する。	○		
	・ユリの鱗片培養	無菌播種法と共生培養法の技術を習得へ意欲的に取り組んでいる。			○
	・トルコキキョウの葉片培養				
	・サクラソウ（プリムラ）の器官培養				
	・シランの無菌播種と培養				

教科・科目（単位数）	農業・総合実習（2単位）	学年	3年
使用教科書・副教材等	草花(実教出版)	集団	32HR・フラワー
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次の通り育成することをめざす。 （１）農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。 （２）農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。 （３）農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・農業の各分野に関する総合的な知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。
② 思考・判断・表現	・農業の各分野における総合的な技術の習熟と、各科目における知識の確認と検証を通して総合的な技術に関する課題を発見し、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもって、農業各分野の専門的な内容について、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	・農業の各分野における自らの職業生活について考えながら、農業の総合的な知識や技術、経営や管理について企画力や管理能力、活用技術などを学ぶ中で、農業の各分野への展開と活用を目指し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	③	④
4	草花の生育と栽培技術と繁殖	花壇用草花の基本的な増殖方法や栽培方法について基本的な知識を身につける。	○		
		草花の繁殖技術を身につけ、協働的に作業する態度を身につけている。			○
5	草花の栽培管理	草花の生育状況を観察し、栽培方法における課題を設定し創造的に解決する能力を身につけている。		○	
6	草花生産と消費の動向	国内外における生産の変化や消費の状況等の知識を身につけ、最適な栽培計画をたてることができる。	○		
7	草花生産と経営	国内における草花栽培の課題を発見し、創造的に解決する知識や技術を身につけている。	○	○	○
9	秋播きの草花生産と栽培技術と繁殖	花壇用草花の基本的な増殖方法や栽培方法について基本的な知識を身につける。	○		
		草花の繁殖技術を身につけ、協働的に作業する態度を身につけている。			○

1 0	生活と草花の利用	様々な花壇についてその特性を理解し、環境にあった花壇のデザインを考え実践する技術を身につけている。	○	○	
1 1	園芸デザイン	花壇作成の実践において、主体的に作業する態度を身につけている。			○
1 2	鉢物生産と繁殖	鉢物生産の特色を理解し、栽培管理の技術を身につけている。	○		
1	経営改善プロジェクト	国内の草花経営の改善事例を学び、それぞれの課題に気づき創造的に解決する能力を身につけている。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・草花（３）	学年	３年
使用教科書・副教材等	草花（実教出版）	集団	３２ＨＲ・フラワー
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、草花の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）草花について体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 （２）草花に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。 （３）草花について特質を理解し、農業の各分野で理解できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的にかつ協働的に取り組む。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	- 草花の形態的特徴や生理的特性について理解する。 - 観察や実験・実習を通して科学的かつ創造的に学習を進め、草花の応用を図る実践力を身に付けている。
② 思考・判断・表現	- 草花について性質や特徴を考察し、適切に取り扱う判断力を身に付けている。 - 草花を生活に取り入れることを考察し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	- 実習における責任や協働の経験を通して主体的かつ協働的に取り組むことができる。 - 草花の種類やその特徴に関心を持ち主体的に取り組むことができる。
評価方法	- 知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート 等） - 記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク 等） - 学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み 等）

月	単 元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	草花生産と消費の動向 （１）草花園芸の特徴	草花生産形態と経営の特徴を他の農作物と比べて理解する。	○		
	（２）春まき草花の利用	春まき草花の生産と流通を理解する。	○		
5	（３）草花生産と消費の動向 生活と草花の利用	草花の生産と流通のしくみを理解し消費の動きから輸出入の状況を把握し、表現することができる。		○	
	（１）繁殖方法の実践	春まき草花の花壇苗や鉢ものを利用しながら繁殖の様々な方法へ意欲的に取り組んでいる。			○
6	（２）草花の多面的利用	草花が生活の中でどのように利用されているか関心を持ち、多面的な利用について理解する。	○		
	（３）園芸デザイン 草花の特徴と栽培技術	草花の装飾的特性を理解し、特性を生かした利用方法を表現することができる。		○	
	（１）草花栽培の実践	春まき草花の花壇苗や鉢ものの栽培管理方法を理解し意欲的に取り組んでいる。			○

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
7	(2) 草花の生育と環境	草花の生育と環境要因との関係を学び、開花の調整方法を理解する	○		
9	(3) 品種改良と繁殖	品種の重要性と品種改良の目的を理解し、品種改良の様々な方法を表現することができる。	○	○	
	(4) 秋まき草花の利用	秋まき草花を利用しながら花壇苗や鉢ものの生産へ意欲的に取り組むとともに、流通を理解する。	○		○
10	(5) 草花の生育と栽培技術	草花の生育環境と適切な栽培技術を理解し、品質や草姿の調整方法を表現することができる。	○	○	
	(6) 草花栽培の実践	秋まき草花を利用し、花壇苗や鉢ものの栽培管理方法を理解し意欲的に取り組むことができる。	○		○
11	(7) 生産施設と栽培環境の調節	温室やハウス、資材の特徴を理解し、施設・設備を用いた栽培へ意欲的に取り組むことができる。	○		○
	(8) 草花栽培の実践	秋まき草花を利用しながら花壇苗や鉢ものの生産、出荷、販売方法を理解し、実践する。	○	○	
12	鉢ものの生産 (1) 鉢ものの生産の経営的特色	鉢ものの経営的特色・栽培管理の特色を理解する。	○		
1	(2) 鉢物の資材と商品化技術	鉢物に必要な資材について理解し、仕立て方や商品価値を高める技術を表現することができる。	○	○	